

日本とトルコの昔話

1
今から 29 年前の 1980 年、国境を巡ってイランとイラクで戦争が起きました（イラン・イラク戦争）。戦争は中々終結せず、1985 年 3 月 17 日 ついにフセイン大統領は「48 時間の期限をたってもイラン上空をとぶ航空機は無差別に攻撃する」と宣言しました。



日本に かんえれない・・・？



2
当時テヘランには 450 名を超える日本人が居ました。日本政府は彼らを脱出させるべく日本の航空機を手配しましたが、「期限までの脱出が困難である」等の理由から航空機を派遣する事は叶いませんでした。その後も他国に救援を頼みましたが、どの国も自国民を助けるので精一杯。そしてついに 215 名の日本人をテヘランに残したまま爆撃開始まで 25 時間という事態を迎えてしまいました。



3
誰もが諦めかけていたその時です。日本はトルコに最後の希望を託しました。「日本人の為に航空機を飛ばせないだろうか？」トルコ政府はこの救援要請に応じ、トルコからテヘランに 2 機の航空機がやってきました。そして爆撃開始まであと 3 時間というところで航空機は飛び立ち、無事トルコに着いたのです。あと数時間で爆撃を受けたかもしれない危険を冒してまで、なぜトルコは日本を助けてくれたのでしょうか？



7
1996 年、新潟県柏崎市に柏崎トルコ文化村というテーマパークがオープンしました。トルコ料理や特産品、子供向けのアトラクションなどを揃えた遊園地で、今回問題となっているアタテュルクの銅像も展示されていました。



このアタテュルクの銅像は、トルコ共和国から友好の証としてトルコ村に寄贈されました。（また、このときトルコは「日本は軍事国家ではないから」という理由からわざわざ軍服を着ていない姿にしてくれました）



8
しかし徐々に資金繰りが悪化し、運営会社が破綻。2002 年に柏崎市が買い取りますが、2004 年の新潟県中越地震をきっかけに集客が激減。閉鎖となってしまいました。柏崎市は 06 年 7 月、A 会社（仮名）に 1 億 4 千万円でトルコ村を（土地や建物、銅像もふくめて）譲渡しました。「銅像の取り扱いは十分、市と協議する」と明記され銅像は展示されましたが、07 年の新潟県中越沖地震で倒壊の恐れを理由に像は台座から外され、放置されていました。

現在では屋内に移動された(?)らしく野外に放置されていない様です。

9
すぐにも銅像を移転させたいところですが、ある問題がありました。A 社が買い取った土地の中に民間人が所有する土地があったのです。現在は、地権者が賃料の支払いを求めて A 社を提訴し、また A 社は「売買契約時の説明が誤っていた」として市を提訴するという事態が起こっています。（市は適法に譲渡したと主張）

両者とも銅像に関してどうにかしたいと考えているものの、裁判が中々進まないために銅像の移転問題も折り合いがつかず、保留状態となっています。（詳しくは団体 HP 等をご覧ください。）



10
100 年以上前の悲劇から互いに友好を深めてきたトルコと日本。そんなトルコから友好の証として贈られてきたアタテュルク像。訴訟問題が進展しないのは仕方が無いかもしれませんが、このままでよいのでしょうか？

現在、インターネット上ではこの問題を知った人達が「トルコに対してあまりに失礼だ」、「1 日でも早期解決を！」と行動を起こしています。『ムスタファ・ケマル像を移転する会』もその中の一つです。



『ムスタファ・ケマル像を移転する会』ってなに？

今回の問題を知った 2 ちゃんねるの掲示板の人達の中からハンドルネーム「串本町代表電話」氏が代表して設立した団体です。この問題を少しでも多くの人に知ってもらおうと、チラシを作ったり動画を作ったりと、いろんな人達がいます。

団体 URL
<http://www.19.atwiki.jp/torco/pages/1.html>

団体の目的は？

本団体の目的は、新潟県柏崎市の旧柏崎トルコ文化村内にあるムスタファ・ケマル・アタテュルク像を裁判から切り離し、銅像の移転（移転先の候補として和歌山県串本町があがっています）・再建、または現状の改善を求めることです。しかし、いまだこの問題を多くの人には知りません。そのため、現在団体では少しでも多くの人々に知ってもらおうと宣伝動画やパンフレット、チラシ等を制作してこの問題を宣伝しています。



2009 年 5 月 6 日、産経ニュース様にとりあげていただきました。
<http://sankei.jp.msn.com/life/trend/090506/trd0905060153000-n1.htm>
団体 HP のトップページからも閲覧する事が出来ます。